



あなたのことが分からなかった。
この旅に出るまでは――。

失われた
記憶へ向かう
親子の旅の果てに…
衝撃の最終章



さくらもり

北の桜守

吉永小百合 堺雅人 篠原涼子
岸部一徳 高島礼子 永島敏行 笑福亭鶴瓶 中村雅俊
安田顕 野間口徹 毎熊克哉 土屋慶太 阪本楓希 菅原大吉 螢雪次朗 大出俊
阿部寛 佐藤浩市

監督／滝田洋二郎 脚本／那須真知子 舞台演出／ケラリーノ・サンドロヴィッチ 音楽／小椋佳 星勝 海田庄吾 撮影監督／浜田毅
主題歌「花、蘭の時」 作詞・作曲 小椋佳 編曲 星勝
オリジナルサウンドトラック／アップフロントワークス コーラス／Horiuchi Kohei(99RadioService) 仙石みなみ 田崎あさひ・長谷川萌美(Bitter & Sweet)

特製ブックレット付前売券
数量限定好評発売中!!

劇場窓口にて
前売券料金(税込)
1,400円

※一部劇場を除く
※プレゼントは劇場により数に限り
がございます



2018年3月10日(土)
全国ロードショー

3/10(土)
ROADSHOW

制作総指揮／早川洋 原田研介 企画／多田繁之 角南源五 木下直哉 製作／戸田裕一 大森博昭 高木博昭 関宮登良臣 監製／原口亨 山口孝一 渡辺博隆 磯良実 横井正彦 和泉雄 広瀬兼三 吉村和文 北澤晴樹 伊藤裕典 佐藤吉雄 森原真樹 監製／原田研介 亀田誠二 エグゼクティブプロデューサー／村松道雄 共 野 シニアプロデューサー／佐々木基 監修／プロデューサー／福永理生子 舞台プロデューサー／北村明子 アニメイトプロデューサー／高橋一平 キャスティングプロデューサー／福岡康裕 音楽プロデューサー／津島玄一 脚本／高塚寛 美術／藤谷友幸 録音／小野寺 輝 VFXスーパーバイザー／野口光一 特撮／佛田 洋 助監督／足立公良 美術補佐／小林久之 装飾／藤澤 武 衣裳デザイン／宮本菜穂 ヘアメイク／田中マリ子 編集／李 英美 スタッフ／森 直子 制作担当／道上巧矢 演出プロデューサー／佐川貴章 山下秀治 制作総務／木次谷良助 製作プロダクション／東映東京撮影所
原田研介 製作委員会／東映 テレビ朝日 木下グループ 東映アニメーション 博報堂 博報堂DMMエンタテインメント&デジタル 東映ビデオ 朝日放送 シニア〜東日本企画 朝日新聞社 読売新聞社 北海道テレビ メール 九州朝日放送 北海道新聞社 インターネットテレビ 広島ホームテレビ 東日本放送 新潟テレビ21 共同制作／宝島映株式会社 LAWSON 協賛／ANA 協力／橋内市 観念市 SGRIS 伊藤忠 東映アニメーション 特別協力／JTB 配給／東映 ©2018(北の桜守) 製作委員会 NOT FOR SALE

激動の時代を懸命に生き抜いた親子の物語——

解・説

INTRODUCTION

『北の零年』(05)、『北のカナリアたち』(12)に続く“北の三部作”最終章である今作。多くの名作が生まれた北海道の雄大な風景の中で、今回描かれるのは大戦末期から高度経済成長期という激動の時代を生き抜いたある“親子の物語”である。

厳しくも温かく息子を見守る母・江蓮^{えづれ}てつを演じるのは本作が120本目の映画出演作となる吉永小百合。苦難を乗り越えて成功し、老いた母と再び時を過ごすことを決める息子・江蓮修二郎を堺 雅人が演じる。さらに、

修二郎の妻・江蓮真理役に篠原涼子。親子を見守る山岡役に岸部一徳。てつの夫・江蓮徳次郎役の阿部 寛、てつたち親子を助ける菅原信治を佐藤浩市が演じ、豪華キャストが顔を揃えた。

監督は『おくりびと』(08)で世界を沸かせた滝田洋二郎。脚本は“北の三部作”全作品を手掛ける那須真知子。物語を象徴的に彩る演劇的シーンの舞台演出として、ケラリーノ・サンドロヴィッチが名を連ねる。

北の史実に心を揺さぶられる今春必見の大作が、堂々完成した。

物・語

STORY

1945年5月、南樺太に住む江蓮^{えづれ}家の庭に待望の桜が花開いた。夫と息子たちと暮らす江蓮てつが大切に育てたその花は、やがて家族の約束となる。

しかし8月、本土が終戦に向かう中、樺太にはソ連軍が迫っていた。樺太に残る夫との再会を約束し、てつは二人の息子を連れて網走へと逃げ延びる。

時は流れ1971年、次男の修二郎はアメリカに渡って成功し、米国企業の日本社長として帰国する。15年ぶりに網走へ母を訪ねると、そこには年老いたてつの姿があった。

一人暮らしが心もとなく思えるその様子に、再び母と共に暮らす決意を固める修二郎。しかし思いあうがゆえに母子はすれ違いを重ね、立派になった修二郎に迷惑をかけたくない、てつは一人網走に戻ろうとする。

母に寄り添いたいと願う修二郎は、二人で北海道の各地を巡り、共に過ごした記憶を拾い集めるように旅を始める。再会を誓った家族への想い。寒さと貧しさに耐え、懸命に生き抜いた親子の記憶。戦後の苦難を共にした懐かしく温かい人々との再会。幸せとは、記憶とは、そして親子とは。そして満開の桜の下で明かされる、衝撃の真実——

